

参加各位

**「馬場小室山遺跡フォーラム」第74回ワークショップ****【 原動力！パブリック・アーケオロジー2016 】****馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かわい」と未来への新たな挑戦***馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します！***＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の生業遠隔往還と広域流通社会からの大転換とは?—＞**

新展開1	「ムロさま」の「限界領域」打破	晩期中葉以降、弥生中期の <b>葬墓式</b> と <b>広域人面ネットワーク</b> 研究
新展開2	「オムちゃん」の限界知識「打破」	中空土偶から容器形土偶という土偶の「 <b>台式</b> 」化への社会的意義
新展開3	「シオ(塩)もん」の「限界経験」打破	「製塩土器」形態の確立と <b>晩期に爆発的に普及する社会的背景</b>
新展開4	「タマきみ(君)」の「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の <b>晩期流通</b> (関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「 <b>壺棺墓</b> 」 <b>流通</b> (上越周辺北信経由)の実態解明

**1. 【「ムロさま」研究からの問いかけ】：「ムロさま」の葬墓式から方形周溝墓までの展開を追求しましょう！**

★20世紀の縄文時代研究は縄文時代後期の列島に広く展開する再葬現象を明らかにしました。さらに縄文時代中期の姥山貝塚接続溝第1号堅穴では**廃屋墓**が時間経過後も墓域として再利用されることを示しています。その他を含めて縄文時代には**墓式である石棺墓／木棺墓／配石墓／土壘墓／廃屋墓**などの形態、併せて**葬式である一次葬(伸展葬／屈葬など)**、**追葬**、**小金井良精の重葬(「積層墓」)**、**再葬(洗骨葬／改葬／複葬など)**、「**人骨集積**」、「**ムロさま**」の「**累積型改新墓**」など、それに**副葬品**などをはじめとする**多彩な墓址現象**、更には**墓域の空間利用における埋葬様式の多様性**に年代的地方的な特徴が顕著にみられます。

21世紀の縄文／弥生時代葬墓式研究は奥東京湾や東京湾沿岸においては「**方形周溝墓以前の墓制と土器社会論**」へと視野を拡張し、その元型として「**ムロさま**」の「**累積型改新墓**」から追求する視座を1985年愛知県集会の「**出流原式**」細別と第11号土壘の「**追葬型集合壺棺墓**」における**顔壺**への変遷に求め、これまでの葬墓式研究を抜本的に見直すとともに「**集合壺棺墓**」への途を確立し深耕しましょう。

\*\*\*\*\*

**馬場小室山遺跡「第51号土壘」から展望する縄文時代晩期以降の葬墓式と土器社会論**  
—「ムロさま」の「累積改新墓」から探る「集合壺棺墓」への途—

\*\*\*\*\*

**1-1. 1985年の「出流原式」細別と第11号土壘の「追葬型集合壺棺墓」における顔壺までの変遷**

・愛知県集会当日配布資料をワークショップ参加者に再配布し解説します。概説や通説とは全く異なる「追葬型集合土器棺墓」の根拠となる型式学とは何か、について30年前の提案から考え始めます。

**1-2. 晩期を中心とした列島葬墓制概観—「ムロさま」の時代はどのような葬墓式が展開していたか?—**

・九州では後期前半に東日本から**土器棺**(「埋設土器」)が伝わり、後期中葉には**合口土器棺**が出現、晩期後半からは**群集化**するとともに弥生式早期には**支石墓**が展開、そして弥生式前期後葉からは**壺棺**が定着します。最古の**木棺墓**は山口県下関市御堂遺跡から**晩期前半**の例が検出されています。

・近畿の晩期墓制の特徴として、前葉から中葉にかけて小児・乳幼児専用の土器棺が成人の再葬容器としても使用される動向がみられ、特に中葉では土器棺の群集が顕著です。こうした動向は**東海**にも見られることから、**列島における墓制の変質点は「ムロさま」の時代**となります。しかも晩期後葉には**木棺墓**が確実に出現するようです。このような列島の動向の中で「第51号土壘」の成立を**北関東から南奥**の系譜とともに考えてみましょう。

・「ムロさま」以後は土器棺における形制変質からやがて**壺棺**の成立と**群集化**を見ることとなりますが、**容器形土偶**の定着と併せて**大型壺**を選択・使用する風習は、**北部九州の壺棺**との対置に相応しく、群集

化された「集合壺棺墓」は土地所有に関わる階層差が顕現しない平和な定住制社会を示します。

### 1-3. 「土器社会論」から見た「集合壺棺墓」の形成—北奥「遠賀川系土器」も共通するのは何故?—

- ・『利根川』や『婆良岐考古』などで議論しました「集合壺棺墓」ですが、関東周辺の特徴として中期前葉「岩櫃山式」に定着し、中期中葉へと継承・展開されますが、それ以前の合口土器棺と合口壺棺の2系統の風習(合口には蓋石作法を含む)から、それらが南奥において融合併存した「集合合口土器・壺棺墓」への移行、加えて北奥「遠賀川系土器」の風習である「金田一型土器棺墓」と命名した合口壺棺の南奥以南への展開・盛行を概観するならば、縄文時代終末から弥生時代前期にかけて展開した葬式が、どのようにして「集合壺棺墓」へと収斂するか、そのプロセスを追求することが喫緊の課題であります。

### 1-4. 山口県響灘の土井ヶ浜遺跡における葬墓式と「弥生再葬墓」の出現—弥生文化の故地はどこ?—

- ★「弥生再葬墓」という概念は、縄文文化の伝統的な再葬を継承した「集合壺棺墓」に対して使用すべきではなく、**渡来系集団構成に観られる葬墓制に一定の割合で出現する「集骨遺構」の再葬墓(土器棺の関与なし)**をに宛てる用語として使用するのがその系譜関係上も適当・適切と思われる。

「弥生再葬墓」!



墓式 墓群	石棺墓	石囲墓	配石 土壇墓	立石 土壇墓	その他 土壇墓	土壇墓 計	集骨 遺構	散乱 人骨	不明	計
東群	5	6	31	14	42	87	29	3	2	132基
西群	—	—	5	—	18	23	3	2	—	28基
北群	—	—	1	—	—	1	—	—	—	1基
計	5	6	37	14	60	111	32	5	2	161基

＜ 土井ヶ浜遺跡における埋葬遺構内訳一覧表(乗安和二三、2014) ＞

- ・土井ヶ浜遺跡の葬墓式は弥生式前期後半から中期前葉までの共同墓地における風習と措定されますが、墓址形態の多様性には明らかな階層性が彷彿としますし、とりわけ「弥生再葬墓」が顕著な特徴となる点もその系譜関係や集団内地位に注目されるところです。

## 2. 【「シオ(塩)もん」研究からの問いかけ】：藻屑の泡と消えた「藻塩焼き」の先に見えるものは何か?

- ・鴨志田隼司氏が進めてきましたアマモによる塩づくり実験報告から1年が経ち、明治大学博物館のパンフレットにも塩づくり実験の解説がありました。改めて縄文時代の内湾海辺について印象風土を考えます。
- ・縄文時代の貝塚からはヨシ(アシ)やアマモを普通に焼く現象が措定されますので、これらを焼く意義を検討します。ご存知だと思いますが、アマモは海藻ではなく、**海草**ですので、焼いた灰は「藻灰」ではなく、「**草灰**」です。畑文化には「草木灰」としての価値は極めて高いのですが、縄文時代の畑ではそこまでの価値は対象外とします。保存用に「草灰」を利用するのであれば、「**灰干しワカメ**」も考えられます。
- ・現実に戻ります。「**製塩遺跡**」には大量の灰が捨てられている**捨灰遺構**があります。土器製塩には大量の燃料が必要とされますが、**塩分の多い潮風に強い草木が大量に存在する印象風土は近世のこと**ですので、縄文時代には燃料の確保が重要な問題となることは間違いありません。「草灰」と捨灰遺構の関係からは、**土器製塩と燃料調達の関係の中でヨシ(アシ)やアマモの乾燥利用を考える**ことが肝要に思われます。

## 3. 【第4回「山田湾まるごとスクール」(9/3-5)】の準備：ワイン・アーケオロジーにて話題提供します!

- ・被災地支援コーナー・交流サロンで知遇を得ました「宮北会」は山田町で被災地支援ボランティアに取り組んでいますが、その縁で**房の沢IV遺跡**に近い北浜老人クラブの活動を知ることになりました。復興に向けたパブリック・アーケオロジーの在り方を含め、私たちならでは被災地復興支援を検討します。
- ・事務局では、「あれから5年」の新たな局面を迎え、更なる交流を進めていますが、そこでは、**北浜老人クラブ『浜よ、ふたたび—私たちは忘れない—』に学ぶ**、という企画を、そしてこれまでの船越半島の大浦仮設住宅の方々とは、『**大網**』に学ぶ、という新たなテーマで、ともに「防災・減災考古学」を推進します。

## 4. 【その他】:

- ・次回の**第75回ワークショップ**は**10/16(日)**に行いますのでご予約ください。

以上